

がん化学(放射線)療法レジメン申請書 (ver.4)

・記載不備がある場合は審査対象になりません。＊は記入不要です。

申請日	2025 年 10 月 21 日	受付番号	＊
診療科名	血液内科	がん種(コード)	＊
診療科長名		登録ナンバー	＊
申請医師名		承認日	＊
審査区分(下記をチェックしてください)		マスタ登録日	＊
通常審査を希望	☒	マスタ変更日	＊
迅速審査を希望	☐ 注1)	最終改訂年月日	＊
迅速審査(患者追加)を希望 (過去登録歴あり)	☐ 注1)	登録削除日	＊
HP でのレジメン公開の可否	可 ☒ 不可 ☐		

注 1) 迅速審査は患者限定となります。

がん種	レジメン名	実施区分	使用分類	適応分類
多発性骨 髄腫	Kd Once weekly 注2)	☐ 入院 ☐ 外来 ☒ 入院及び外来	☒ 日常診療(試験以外) ☐ 単施設自主研究 ☐ 多施設自主研究 ☐ 市販後臨床試験 ☐ 治験 ☐ その他	☐ 術前補助化学療法 ☐ 術後補助化学療法 ☒ 通常化学療法 ☐ 大量化学療法 ☐ その他()

・申請されたレジメンは原則共用ですが、科限定を希望する場合(治験や特殊な化学療法)は右にチェックしてください。 ☐

注 2) レジメン名の命名法：①疾患(臓器) ②薬剤(多剤の場合はコンセンサスの得られた通称) ③投与法、④臨床試験の場合は試験の名称または研究グループ名称—この順番に命名してください。(day8, day15 などの投与日がある場合、オーダリングシステム上は別レジメン名となりますので、承認後⑤として・day8 や・day15 が加わります。)

(a)投与スケジュール記載例

薬剤名	投与量	day1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
薬剤A	Xmg/m ²	●																											
薬剤B	Ymg/m ²	●							●							●													
1コース期間																													
		28日			目標コース数					口有 (コース)		口無(PDまで)																	

(b)投与日のスケジュール記載例

投与順序	投与薬剤名(商品名)	投与量		投与経路	投与方法	投与時間	その他コメント	投与日 Day(丸数字は投与順番を記載)															
		量	単位					1	2	8													
記載例	アロキシ注	0.75	mg	側管	点滴	30 分	抗がん剤投与30前より開始																
	デキサート注	9.9	mg					①															
	生食	100	mL																				
	生食	250	ml																				
1				メイン	点滴		分	ルートキープ	①														
2	デキサート注	8.8	mg	側管	点滴	30 分																	
	生食	100	mL					②	②	②													
3	ゲムシタピン	1000	mg/m2	側管	点滴	60 分																	
	生食	100	ml					③		③													
4	シスプラチン	100	mg/m2	側管	点滴	60 分																	
	生食	500	ml					③															

- ①疾患名
- ②薬剤名あるいはレジメンの通称
- ③必要があればスケジュールやアジュバント等を記載の順にしてください。

レジメン名(登録名)	Kd once weekly (1サイクル目)
休薬期間※	※
レジメンコード※	※
対象疾患	多発性骨髄腫
診療科名	血液内科
記入者名	

[illegible]

メインの点滴や負荷輸液の薬剤(外液や維持液など)をレジメンマスタに登録するのは任意ですが、レジメンの一部として登録するとオーダーの際に便利です。

[illegible]

①疾患名
②薬剤名あるいはレジメンの通称
③必要があればスケジュールやアジュバント等を記載の順にしてください。

レジメン名(登録名)	Kd once weekly (2サイクル目以降)
休薬期間※	※
レジメンコード※	※
対象疾患	多発性骨髄腫
診療科名	血液内科
記入者名	

抗がん剤名(一般名)	投与量	day1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
カルフィルゾミブ	70 mg/m ²	○							○							○													
1コース期間	28 日		休薬期間				13 日				目標コース数				□有 (コース)				■無(PDまで)										

メインの点滴や負荷輸液の薬剤(外液や維持液など)をレジメンマスタに登録するのは任意ですが、レジメンの一部として登録するとオーダーの際に便利です。

[illegible]

様式3

(審査の参考にしますので簡単に記載してください。)

基準項目											
適格基準	少なくとも1つの標準的な治療が無効又は治療後に再発した患者 臨床試験（A.R.R.O.W.試験）における主な適格基準（参考） 18歳以上の再発・難治性多発性骨髄腫患者 プロテアソーム阻害剤および免疫調節薬を含む2または3レジメンの前治療歴がある 直近の治療に対して治療抵抗性である ECOG Performance Status が0または1 十分な臓器機能（特に心機能として左室駆出率が40%以上）が保たれている										
開始基準	上記の適格基準を満たした患者										
投与量 変更基準	休薬基準 Grade 4の血液毒性（血小板減少、リンパ球減少、貧血） Grade 3以上の好中球減少 Grade 3以上の非血液毒性（脱毛症、悪心・嘔吐、下痢、疲労を除く） 上記副作用が発現した場合は、回復するまで本剤を休薬する。 減量基準 休薬後、治療再開する際のカルフィルゾミブの減量レベルは以下の通り。 <table border="1"> <tr> <th>副作用発現時の投与量</th><th>投与再開時の投与量目安</th></tr> <tr> <td>70mg/m²</td><td>56mg/m²</td></tr> <tr> <td>56mg/m²</td><td>45mg/m²</td></tr> <tr> <td>45mg/m²</td><td>36mg/m²</td></tr> <tr> <td>36mg/m²</td><td>投与中止</td></tr> </table>	副作用発現時の投与量	投与再開時の投与量目安	70mg/m ²	56mg/m ²	56mg/m ²	45mg/m ²	45mg/m ²	36mg/m ²	36mg/m ²	投与中止
副作用発現時の投与量	投与再開時の投与量目安										
70mg/m ²	56mg/m ²										
56mg/m ²	45mg/m ²										
45mg/m ²	36mg/m ²										
36mg/m ²	投与中止										

以下の①～③のうち、当該レジメンが該当する箇所にチェックしてください。

- ① 標準治療^{注3)}である。または、標準治療に準ずる治療である ☒
- ^{注3)} 標準治療とはエビデンスレベル「Ⅱ」以上であることを原則とします。
- ② 臨床試験の場合は IRB にて承認をうけている ☐
- ③ ①②いずれにも該当しない(通常審査での申請は不可) ☐

①、③の場合 エビデンスレベルを以下の表にチェックしてください。重要文献も添付してください。
また、当該レジメンの申請理由について記入してください。なお、③の場合は当該レジメンをどのような位置づけで実施しようとしているのか、ガイドラインに一応の記載がある、学会やコミュニティでのコンセンサスがある、診療科内でのコンセンサスがある、など、そのレジメンの信頼度について申請者がどのように判断した上で申請しているのか、が具体的に分かるよう申請理由に記載して下さい。

Level	内容	チェック欄
I	Phase III のランダム化比較試験の結果、優越性もしくは非劣性を示したもの	☒
II	Phase II の prospective study の結果により、標準治療になりうるものが学会などで広くコンセンサスを得ているもの	☐
III	Phase II などの prospective study	☐
IV	Retrospective study (case control study など)	☐
V	Case reports	☐
VI	専門家の意見	☐

申請理由 ^{注4)}	本レジメンは、国際共同第Ⅲ相臨床試験（A.R.R.O.W.試験）において、週 2 回投与の同レジメン（カルフィルゾミブ 27mg/m ² ）と比較して、主要評価項目である無増悪生存期間を有意に延長することが示された（中央値 11.2 ヶ月 vs 7.6 ヶ月、ハザード比 0.69）。全奏成功率も週 1 回投与群で良好な結果であった（62.9% vs 40.8%）。安全性プロファイルは両群で同等であり、新たな安全性の懸念は認められなかった。以上のエビデンスから、本レジメンは有効性が高く、安全性も許容可能である。さらに、週 1 回への投与頻度の減少は患者の通院負担を軽減し、QOL の向上にも寄与しうると考えられるため、再発・難治性多発性骨髄腫に対する標準治療の一つとして申請する。
参考文献	Moreau P, et al. Once weekly versus twice weekly carfilzomib dosing in patients with relapsed and refractory multiple myeloma (A.R.R.O.W.): interim analysis results of a randomised, phase 3 study. Lancet Oncol. 2018 Jul;19(7):953-964.

^{注4)} このレジメンの妥当性や必要性を含め、申請理由を審査委員にわかりやすく記載してください。
無記入の場合には、審査対象となりませんのでご注意ください。なお、迅速審査の場合には、レジメンの説明に加えて、当該患者背景や使用する理由を記載してください。

②の場合

以下を記入してください。

1.試験名 2.試験期間 3.phase 4.IRB 承認の有無[予定]
プロトコール概要